

■北海学園大が全勝優勝。道学生選手権第8節最終日

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第8節最終日は10月13日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行った。北海道大が59-0で東京農業大を下し、北海学園大が24-10で釧路公立大に勝利した。この結果、すでに優勝を決めている北海学園大が5勝、北海道大が4勝1敗、釧路公立大が2勝1分け2敗、東京農業大が5敗となり、北海学園大の単独優勝、北海道大の2位、釧路公立大の3位、東京農業大の6位が決まった。北海学園大は北海道代表として、11月8日に金沢市営球技場で行われる全日本大学選手権1回戦で北陸地区代表と対戦する。また東京農業大は最終節の10月26日、2部優勝の北海道科学大と入れ替え戦を行う。第9節は10月19日（日）、帯広畜産大グラウンドで1部の室蘭工業大（1勝3敗）-帯広畜産大（1勝1分け2敗）の試合を行い、1部の全日程を終了する。

北海道大-東京農業大は、層の厚さを誇る北海道大が攻守で圧倒し、59-0で大勝した。



北海道大は第1Q5分、RB後藤恭佑（1年）の1ヤードランで先制すると、8分にRB下島圭太郎（3年）の2ヤードランで14-0。第2Qは3分にLB/K平沢力駆（1年）の32ヤードFG、5分にQB神田智史（4年）

からWR武田優一郎（2年）へ30ヤードパス、9分にRB森泉（1年）の3ヤードラン、11分にQB松永潤（2年）からWR近藤悠世（1年）へ5ヤードパスで加点し、37-0で折り返した。第3Qは2分にQB松永からWR近藤へ26ヤードパス、9分にRB森の9ヤードランでTDを加え、第4Qも3分にQB松永からWR武田へ34ヤードパスを決めて、59-0とリードを広げた。

東京農業大はQB関叶翔（2年）のパスで反撃したが、主力選手の欠場もあり、第1ダウンを更新できたのが2回だけだった。

北海道大の樋之本彬HCは「最終戦なので準備してきたことをすべて出すのが目標だった。交代選手も1年生が活躍してくれた。今シーズンは去年より選手の意識が上がったが、まだ北海道で優勝するレベルに足りていない」と総括。来季の巻き返しに期待した。3TDパスのQB松永は「まだ相手守備を読むのが得意なプレーと苦手なプレーがある。冬場に頭と体を一から作り直したい」と来季を見据えた。

東京農業大の大類楽コーチは「けが人が多かったが最後まで走り抜け、1年生も経験を積めた。入れ替え戦では1部の壁の厚さを分からせたい」と力を込めた。QB関も「入れ替え戦はオフェンスで圧倒して終わらせたい」と決意した。

2023年が2点差、昨年は1点差で北海学園大が接戦をものにししている北海学園大-釧路公立大戦は、北海学園大が後半の連続得点で24-10と突き放し、堅守で逃げ切った。

前半は、北海学園大が第1Q10分にRB末広大貴（2年）の1ヤードラン、第2Q2分にRB北脇瑠依（1年）の42ヤードランでTDを奪い、釧路公立大も第2Q1分にOL/DL/K北舘来星（4年）の28ヤードFG、11分にQB石川諒（2年）からRBに入ったQB中西亮太（4年）へ7ヤードパスで得点し、14-10で折り返した。

試合を決めたのが後半開始直後の北海学園大の攻撃。第3Q最初の攻撃シリーズでQB成田滉佑（4年）の42ヤードランなどで相手ゴールに迫り、2分にWR/K船山倅輔（1年）が24ヤードFG。直後には相手ファumbleで得た好機には、QB成田からWR神林駿太（2年）へ38ヤードTDパスを決めて24-10とした。



釧路公立大はスペシャルプレーも交えて追いつけを図ったが、北海学園大のDL高橋淳大（1年）のロスタックルやDB斎藤颯（3年）の2インターセプトなどで封じられた。

北海学園大の高木幸樹HCは「今日は守備が頑張った。全日本大学選手権では、北海道代表として恥ずかしい試合をできない」と気を引き締めた。大黒柱のQB成田は「DEを振り切る自信があった」と42ヤードランを振り返り、「全国の舞台では北海道リーグの代表として北海学園大の名前を全国に広めたい」と決意。守備リーダーのLB樫田裕丈（4年）は「ここからがスタート。全国で北海道リーグの名をとどろかせたい」と力を込めた。

釧路公立大の伊藤祐介HCは「フットボールは人数が大事だとあらためて思った。今季でチームを離れるが、新チームのスタイルに期待したい」と巻き返しに期待。主将のQB中西は「最初のシリーズでFGを決めていたら、試合の流れが変わっていたかもしれない。来年こそ北海学園大を倒してほしい」と後輩に託した。（広報委員 塚田博）